

国語では、解答の書き方・表現を一つに限定しがたい設問について、採点基準に近い形の出題意図を示す。

1

問（一）（解答例）

Aは、写真という媒体（メディア）が意識されないということ、Bは、写された対象に客観性、事実性があること、この二者が的確に捉えられていること。

問（二）（解答例）

筆者の例示の主旨を踏まえ、媒体としての写真自体ないし周辺状況に、解釈による意味付与の生じる余地があることを説明できていること。

問（三）（解答例）

家族アルバムが家族の記憶を再構成するものであること、それによって家族の統一を確認できることの二点を把握し、説明できていること。

問（四）（解答例）

超音波写真の胎児は、私的な文脈では個人として解釈されても、社会的な個人としては認められないということを説明できていること。

問（五）（解答例）

医学写真と家族写真は目的が異なるが、超音波によって母体を可視化して胎児という存在に後から意味を与えている点では共通していることを、的確に把握し、説明できていること。

問（六）（意図・基準）

本問は課題作文に当たる。文章・構成面では、字数が8割以上あり、最後まで書き終えていること、誤字脱字がなく、全体の構成がきちんと構築されていることを求めている。内容面では、本文の内容を踏まえていること、指示されている内容にふさわしい具体例を挙げていること、論旨が一貫し、結論まできちんと書かれていることを求めている。

問（七）

(a) 親和 (b) 重宝 (c) 包摂 (d) 看過 (e) 呈

2

問（一）（解答例）

夜船を漕ぐ時には、知っている同士も知らない者同士も呼びかけ合いながら、あちらこちらにいる船が互いに力づけ合っているようであることが

問（二）（解答例）

「もう少しのところなのに。どうなってしまっただろうか」と気になってしかたがない

問（三）（解答例）

心配に思われるので、自分の供人に呼びかけさせるのも、先方の船ではいつもと異なる不審な声だと思っているであろうか。

問（四）（解答例）

自分が到着するとさっさと寝てしまい、後から来る船頭のことを考えないばかりか、大変だったという他船の者の言葉にも興味を示さない思いやりのない態度だったから。

問（五）

- (a) 伝聞推定の助動詞「なり」の連体形 (b) 断定の助動詞「なり」の連用形
(c) 過去推量の助動詞「けむ」の已然形

3

問一

哉（かな）

畏（おそ）ル

問二

馬がもしことばを話せたら

（馬にことばを話すことができるようにさせるならば）

問三〈解答例〉

顔無父の場合、馬は車を引いて走ることを楽しんでいるが、顔淪の場合、馬は御者に走らされていることを意識して走っている。

問四

女：馬

彼：顔夷

問五〈解答例〉

為政者を恐れたり、為政者の支配を意識することなく、民が自らの職務に喜んで従事できるような統治のありかた。